

# 乳用雄子牛の簡易去勢法—〈ゴムリング法〉—について

雪印種苗KK・札幌研究農場 藤本 秀明

雄子牛の去勢は、肉質の点や牛の取扱いの点から、早期におこなった方が良いとされている。

去勢の方法には、観血去勢法と、無血去勢器を使用する方法等があるが、ここでは早期におこなえ、かつ比較的簡易な方法として、当農場で採用している、輪ゴムによる去勢方法を紹介する。

この方法は、生後10～15日ぐらいに実施するのが望ましく、遅くとも生後1ヵ月以内におこなうようにしたい。去勢の順序は、

- ①子牛の陰囊の付根のところにヨードチンキ等でよく消毒する。
- ②次に写真No.1のように、陰囊を親指と人指し指の間にはさむ。この時辜丸は必ず陰囊の中に入れる。
- ③指ではさんだ陰囊の腹側の部分を、輪ゴム3

本位用いてかたく縛る（写真No.2）。

- ④約1ヵ月すると陰囊はミイラ化し（写真No.3）、ミイラ化した陰囊は自然に脱落する（写真No.4）。

## 〈注意〉

(1)輪ゴムで縛る際、ゴムを幅広くまきつけたり、皮膚がひきつれた状態でまきつけぬこと。

また、ゴムで縛る位置は、腹に近すぎぬよう注意すること。陰囊を引いた状態で縛るため、手を離すと縛ったゴムが腹側に埋まり、そこから化膿する恐れがある。

写真No.5は、上記の原因のため化膿しかけた例。

(2)化膿の心配がある時は、早期に抗生物質を塗るなどの手当てをする。

